

子育て支援センターだより

Tel 52-3210

- 6月後半～7月前半の予定 ■
- ◎ 6/20(土) 育児講座「お父さんと遊ぼう」 10:30～12:00
 - ◎ 6/22(月) 園開放「小久慈保育園」 10:00～11:30
 - ◎ 7/1(水) 赤ちゃんサロン 13:30～15:30
 - ◎ 7/7(火) 季節のあそび「七夕会」 10:30～11:30
 - ◎ 7/8(水) ひよこ教室 10:00～12:00
 - ◎ 7/9(木) うさこちゃんの部屋 11:00～12:00
 - ◎ 7/13(月) おやつ作り(山形町) 10:00～12:00
 - ◎ 7/15(水) 絵本の読み聞かせ 10:30～11:00
 - ◎ 7/16(木) リフレッシュ講座 10:00～12:00

■ 利用案内 ■
 ◇ 対象…就学前の児童とその保護者 ◇ 利用時間…毎週月～金曜日、8時30分～17時(土曜日は8時30分～13時30分)
 ◇ お休み…土曜日の午後、日曜日、祝祭日、年末年始
 ◇ 利用料…無料

図書館だより

今月の
オススメ
図書

《市立図書館》 「れんげ荘」 群ようこ 著 角川春樹事務所
 会社を早期退職したキョウコは安アパート「れんげ荘」にお引っ越し。そこには個性豊かな住人が…。おだやかな暮らしを温かい視点で書いた一冊です。

《山形図書館》 「ことば遊びで脳を鍛える」 須賀川誠三 著 鳥影社
 皆さんも、ことば遊びの難問・珍問に挑戦して脳を活性化させてみませんか？6月といえば梅雨。こんな季節こそ雨音を聞きながら読書を楽しむチャンスです。

■ 休館日…月曜日、祝日(祝日が月曜日に重なる場合は翌日)、毎月末日

《市立図書館 TEL53-4605》
 ■ 開館…9～19時(土日は17時まで)
 ● 図書館映画会 6/13(土) ①10:00～②15:00～
 ● チビッコの部屋 ①6/13(土)14:00～②6/27(土)14:00～
 ● 手作り絵本展 6/18(金)～21(日)

《山形図書館 TEL72-3711》
 ■ 開館…10～18時
 ● 雨の日におすすめ図書展 6/12(金)～24(水)



製鉄関係の資料に見入る見学者



歴史民俗資料室の外観



関係者によるテーブルカット

友人と4人で見学した三上登喜子さん(大川目町)は「懐かしい民具を見るとつい笑顔になる。発見もあつておもしろい。次は家族で来たい」と笑顔で楽しんでいました。

資料室は、たたら製鉄の関係資料や民具など民俗資料のほか、宇部町出身の政治思想家「小田為綱」、歌人「小田観蟹」の資料を展示。市内の遺跡から出土した土器などの埋蔵文化財も展示されています。

資料室は事前の申し込みにより少人数でも無料で見学できます。申し込みは社会文化課(Tel 52-2700)まで。

国民年金推進員に相談を

平日、手続きできない方などは

国民年金推進員は二戸社会保険事務所が配置している職員です。推進員は国民年金に関する届け出や保険料の納付、免除申請などの手続きのため、家庭や会社を訪問します。仕事などで平日は手続きができない方には休日や夜間も対応しますのでご相談ください。

推進員は必ず身分証明書を携帯しています。不審に感じたときは身分証明書の提示を求めてください。国民年金の相談や推進員の派遣依頼は二戸社会保険事務所(Tel 0195-23-4111)へ。

本市の担当はこの2人



羽行公也さん



小向美保子さん

貴重な資料を後世に

開設 旧長内中学校に久慈市歴史民俗資料室がオープン

昨年旧長内中学校校舎で資料収集や展示準備を進めていた久慈市歴史民俗資料室は4月28日、ついにオープンしました。

約100人が参加。貴重な資料がいっぱい詰まった資料室の幕開けを見守りました。市教育委員会の末崎順一教育長は「先人の功績や、郷土の歴史が感じられる資料を後世に伝えていくことは大

切。オープンを機に一層、文化財の保護と活用を努めていく」とあいさつ。テーブルカットの後、一斉に入場した見学者は、きれいに展示された約2千点の資料に見入っていました。



家族で教育旅行を支える
ひろと 里ょうこ
内坪博人さん、了子さん
(山形町・62歳、55歳)

心を交わす教育旅行
飾らずに自然体で向き合いたい



上…心の距離をぐっと縮める「家族」のだんらん
下…泊まった子どもの感謝の気持ちがつづられた民泊ノート。開けば大切な思い出があふれます

都会に住む子どもたちが、久慈の暮らしや自然を体験しに訪れる教育旅行。内坪博人さんは内間木洞や山林の案内などを、妻の了さんは民泊を受け入れ、家族で教育旅行を支えています。

教育旅行が始まったのは4年前。山村の生き残り懸けに旧山村が取り組み始めた。「やるからには真剣に。責任を持って取り組んできた」。体制づくりなど準備段階から携わってきた博人さん。最初は距離を置いていた了さんも一念発起。2年前から民泊を始めました。

「田舎の暮らしや自然を楽しむ、良さを知って帰る。子どもたちがまた来たいと言ってくれたときは本当にうれしい」と喜びを語る二人。しかし今では楽しみもなくなった民泊も、最初は不安でいっぱいでした。「初めて家に子どもを泊めるときはとて無理をした。もてなそうと無理をしたため準備に感じることもあった」と了子さん。「でもわたしたち以上に不安なのは子どもたち。その不安を取り除くには家族として迎えることが必要だと気がついた」。二人が心掛けるのは自然体。子どもたちをお客扱いせず、自分の子どものように接します。「朝、家を出るとき帰りに泣く子もいる」。あふれる涙は心が通った証。

「民泊は家族みんなの思い出でもある。民泊を受け入れることによって家族のきずなも強くなった気がする」。了さんは優しくほえます。

今年、久慈を訪れるのは約2300人。盛り上がりを見せる教育旅行について博人さんは「もつと若い人たちにも協力してほしい。関わる人の輪が大きくなれば、より多くの久慈の魅力が伝えられる」と協力を呼び掛けます。

教育旅行の先にあるお金では買えない大切なもの。心と心を交わすため、これからも二人は自然体で子どもたちと向き合います。

受章 侍浜中の清掃が評価



実行章を笑顔で掲げる船渡生徒会長(中)と副会長の東亮太郎くん(左)、林崎かなえさん(ともに3年)

5月13日、侍浜中学校(新毛助直校長・生徒85人)は、小さな親切運動県本部(代表・高橋真裕岩手銀行頭取)から小さな親切実行章を受章。2年前から始めた高齢者宅や公民館を訪問しての清掃活動が評価されました。

生徒会長の船渡五月さん(3年)は「喜んでもらえる掃除も楽しい。全校で活動を盛り上げ、地域の人にもっと喜んでほしい」と笑顔で抱負を話していました。